

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590100550 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | グループホーム ニチイケアセンター上北方 | | |
| 所在地 | 宮崎市大字上北方717-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年6月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年8月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&lijvogyoCd=4590100550-00&PrefCd=45&VersionCd=02 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年6月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されているご利用者の皆様で結成されている「ほほえみ自治会」があります。例えば、暖かい時期と寒い時期では朝食の時間がずれていきます。職員としては起きた方から個別に朝食を提供する旨をお伝えするのですが、自治会総会では「みんな一緒がいい」との意見でまとも、その都度、朝食の時間を御自分たちで、多数決で決められています。本来、調理もご利用者様がされるのが理想的ですが、今のところ、朝食に関してはどなたも調理の名乗りをあげられないので、片付けの方をご自分たちでしていただけるよう、支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な農村地帯の併設事業所の2階にあり、歩いて買物に行けないなど、日常生活に制限を受けている。その中で管理者や職員は、「夢と希望と笑顔」の理念の下、福祉バスを利用しての外出や消防団と協力体制を築いたり、自治会に加入して地域の祭りに参加し、十五夜祭にはお菓子を用意して子供たちとの交流を利用者に楽しんでもらっている。職員は、利用者で結成されたほほえみ自治会で話し合われた事項や記録等の書き方の工夫を重ねて、傍らから見ると理解しがたい行動の理由を知り、利用者の気持ちに即したケアで自立度を高め、日々の体調を考慮し、利用者に寄り添った支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | | | | | | | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 笑顔あふれるホームをめざしているので、職員がいつも笑顔でいるよう心がけている | 全員で作成した理念は、職員に理解されて利用者の気持ちに寄り添ったケアを行っている。さらに、職員の意識向上を図るために、理念を検討することを考えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の自治会に加入しており、地域の祭りなどにご利用者様と一緒に参加している | 地域密着型サービスを理解してもらうために自治会に加入して、管理者が会合に出席したり、サロンの見学に出掛けている。地域の祭りや十五夜祭には、利用者と共に参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域ケア会議に参加する機会があるときは、積極的に参加したいと考えている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長や民生委員の方々が、交代があると、「まだよくわからないから」と、ご意見を頂く事はないが、その分、こちらも事業所の事を知って頂こうと工夫を考えるので、向上につながっている | 運営推進会議の出席者に、地域密着型サービスとしての事業展開の理解と協力を得る取組やホーム活動の参観の企画・立案を積極的に行い、話し合いの中で、ホームが災害時の避難場所になるなど、双方向的な会議を行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市が主催する認知症ケア関連の研修には積極的に参加し、事業所の実情を伝える事が出来ている | 担当課に出向いたり、市主催の研修に参加して、情報の交換や事業所の実情などを伝え、連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は、夜間の通常の施錠のみで、日中は全開にしている | 拘束について定期的話し合い、全職員で理解するように努めている。利用者の気持ちに沿って、居室の窓の開閉を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の防止に関する研修には積極的に参加し、事業所内研修でおとしこんでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護推進委員研修に参加し、事業所内研修でおとしこんでいる | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 今年は消費税増税に伴う料金の改定があり、家族会を開催して説明を行ったが、社会全体の出来事でもあり、理解は容易になされた | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 顧客満足度アンケートを毎年実施しており、内容をサービスの向上に繋げるようにつとめている | 経営する母体は全国で介護事業を展開しているため、会社独自の顧客満足度アンケートを実施している。この結果を運営に反映させ、利用者や家族から出た意見要望にはすぐに対応して、サービスの向上に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファレンスを開く前に、各自が問題点やアイデアを記入しておき、それをもとに話し合いを行っている | 話し合いで、職員を配置する上で、利用者の支援に支障が出てはいけないので、家事代行サービスの利用や福祉バスを使い、有効利用につなげている。自己評価などは全職員で記入し、質の確保に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアアップ制度があり、時給契約者も昇給の機会が与えられている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTは義務化されており、マニュアルに添って新人教育を行っている。 また、テクニカルサービス研修を定期的に行っている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入しており、管理者だけでなく、全職員が認知症に関する勉強会等に参加できるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談受付のあと、ご家族又は、紹介者に許可をいただき、できるだけ個別に会いに行き、面談するようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族との面談には、時間の余裕を持つよう努めており、ゆとりある場を提供している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 診療マッサージを希望する方は多いが、医師の診断書の対象とならないので、対応できないでいる | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 御本人様が不安な時は傍に居て傾聴し、嬉しい時や楽しい時は一緒に笑い、同じ感覚を持って暮らしていると思う(河野) | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様一人ひとりそれぞれのご家族により、面会に来られる頻度も異なるので、ご本人、家族の希望を職員がこれまで以上にしっかりと把握し、本人ご家族、職員での連携を大切にしている(末廣) | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所へ出かける支援は不足しているが馴染みの人が訪ねてきやすい雰囲気作りは心がけている(島田) | センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を使い、丁寧にアセスメントを記入し、利用者のこれまでの生活の継続を支援できるようにしている。家族や1階の事業所の利用者の訪問、主治医の毎日の往診がある。理髪店やなじみの場所に出掛けることもある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 其々の性格を理解し、利用者様同士が関われるように支援している(橘) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所へ移られたあとも時々訪ねて行き、移住先の相談員さんと情報交換している(島田) | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の気持ち、希望を尊重し、それに応じた対応をしている(穂丸) | 介護記録の特記事項等の記入方法を改善したことで、利用者の日常生活での言動に注目でき、傍らから見ると理解しがたい行動には理由があり、この理由を知ることで利用者の気持ちに即したケアを行えるようになっていく。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 介護記録の特記事項の書き方を変更した事により、日々の生活での言動に注目する事が増え、今迄の言動の理由を理解する事で、利用者様の希望にたどり着くことが多くなった(末廣) | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 部屋で食事を取ることが多いご利用者様が、出来るだけ共有スペースで食事出来るようにした事で、他の利用者様とコミュニケーションがとれるようになり、表情が明るくなった(岩田) | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | まずは、スタッフそれぞれが、各ご利用者様について、気づきやアイデアを記入し、それをもとに集計等をして、カンファレンスで共有するようにするという試みを始めたところである(島田) | 諸記録と介護計画が連動している。訪問時や電話による家族の意向、職員の意見などを介護計画の作成や変更反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 状況を書くのではなく、本人の言葉をそのまま記入し、そこで感じたり、気付いたりした職員の言葉を記入する方法をとっている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人やご家族の気持ちを聞き、臨機応変に介助をしている(穂丸) | | |

宮崎県宮崎市 ニチイケアセンター上北方(認知症対応型協同生活介護事業所)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の住民と、ご利用者との交流をはかることがまだまだ出来ていないが、床屋さんや花屋さんなど、少しずつ協力して下さる所が出来ている(島田) | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関としては内科と歯科があり、同意書をいただいている | 受診は、本人及び家族の希望するかかりつけ医になっている。家族と情報交換を密にし、協力医との連携も重視した支援を行っている。協力医療機関以外の通院は、家族及び家事代行サービスを利用している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護師の健康チェック、24時間体制のオンコール体制とフォロー面は充実している(末廣) | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際は介護サマリーを作成し、ホームでの生活の情報を提供している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族、医師、看護師との話し合いを頻回に行い、本人が苦しい思いをしないよう支援に取り組んでいる | 重度化や終末期のあり方について、契約時に説明し、利用者の状態変化に応じて家族と話し合いながら支援している。往診や訪問看護の協力や緊急連絡体制はあるが、看取り指針・同意書に沿った対応はできていない。 | 本社の方針等の課題を踏まえて、対応の必要性を認識してほしい。全職員で話し合い、不安の軽減を図るとともに、ホームとして重度化や終末期にどのようにかかわっていくのかを文書化し、方針をチームで共有することに期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年に2回、救急指導を受けている。また、判らない事がある時は、常に医師や看護師に確認していると思うが、実践力が身につけているか不安(河野) | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域での防災訓練などに防火管理者として参加し、防災センターの講義に行く事はあるが、職員全員の意識を同じように高める事をもっと意識していきたい(末廣) | 地域で開催される防災訓練に、管理者・防災管理者が参加している。ホームでの火災訓練に、地域住民や運営推進会議の出席者が参加している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様皆さんに同じ対応をするのではなく、その方に合った対応をし、1人の方としてみるようにしている(川添) | 家庭的で親しい中にも、人生の先輩である利用者の呼称や言葉掛けに気を付け、誇りを傷つけないように心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思い、希望を尊重し、出来るだけ利用者様のニーズに応えるようにしている。また、自分で表出する事が困難な利用者様は、表情やしぐさなどから思いを汲み取っている(橘) | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様に話しかけられたりした時は、今している仕事を後回しにして傾聴し、時にはレクリエーションや散歩等を行っている(河野) | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の楽な服装、負担にならないように気を配っている(穂丸) | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | キッチンにお誘いしても、なかなか調理をされる方はいらっしゃらないが、食堂で出来る調理なら、ほとんどの方が取り組んでくださる(牧野) | 旬の食材を取り入れたり、気分転換と食欲増進に弁当等が食卓に並んだり、本社の基本的な献立に柔軟に対応して、食生活が楽しくなるような取組を行っている。通常、職員は利用者と一緒に食事をしていない。 | 調査日に職員と利用者が同じテーブルで同じ食事を食べたように、今後も家庭的な雰囲気、おいしい料理、適切な声かけや誘導で利用者のやる気や五感を引き出してほしい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嫌いな物を食べられない利用者様に対しての栄養バランスの偏りに関する工夫はもう少し必要であると感じている(川添) | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | タイミングは利用者様の判断に任せており、介助を必要とする利用者様にも、ご自身で歯磨きをした後、職員が適切に処理し、口腔内や義歯を清潔に保っている(岩田) | | |

宮崎県宮崎市 ニチイケアセンター上北方(認知症対応型協同生活介護事業所)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 御自分でしたい、出来る所までやりたいと思っている方には見守りを行い、したいけど出来ないと言われる方には、介助を行っている(河野) | トイレの位置がわかりやすく表示されている。職員は、本人ができること、できないことを理解して自立支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 色々な予防を試み、本人様に合った、負担にならず続けていける方法で情報を共有する事で早目の対応出来るが、便秘になる方にまだ偏りがあるように感じる(末廣) | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体の不快の感じ方や体調に応じて、介助を行うようにしている(穂丸) | 利用者の希望に合わせた支援を行っている。入浴チェック表を作成して、入浴回数の少ない利用者には入浴を促したり、足浴や清拭など、個々の状態や希望に応じた支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜に起きている利用者様に対しては、本人のペースにまかせており、無理に休ませる事はしない。一日の中でどのくらい睡眠が取れているかを重視している(岩田) | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様の体調に応じて服薬支援ができています(川添) | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 書道をしていただ方には習字で日めくりカレンダーを作っていたり、陶芸教室を開催したりしている(島田) | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 土を踏みたいという方には散歩で満足いただけているが、買い物などは「いつでも」というわけにいかず、外出支援に関しては課題があるが、家事代行サービスの利用や福祉バスの利用など、工夫はしている(島田) | 家族の来訪時に、利用者の情報が一気に増えたことで、なじみの場所にドライブに行ったりすることがある。ホーム周辺の散歩や2か月に1回程、福祉バスを利用して外出支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小額ではあるが、御自分でお金を管理されている方は多く、外食などではご自分の財布から出して頂いている(島田) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話番号を思い出せない方は、電話帳で調べたりできるよう、いつでも取り出せるところに電話帳と電話があり、御自由に使ってもらってるが、間違い電話をかけないように注意が必要(橘) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご利用者が作製した手作りカレンダーを毎日めくる事で、曜日感覚を意識できている。また、月毎に貼り絵を作成し、展示して季節感を出している(岩田) | 生活の場であるリビングの窓から見える景色から季節を感じる事ができ、トイレは目線下に大きく書かれていて、間違わないように工夫しており、居心地よく過ごせるように配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂のテーブルが2つに分かれているが、どちらにも気の合う相手が見つからない方が居る時には、もうひとつテーブルがほしいと思う(川添) | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 其々のご家族に、ご本人様が使っていた物や写真を持ってきていただき、自分が住みやすいように職員と一緒にレイアウトを楽しんでいる(河野) | 一人ひとりの利用者を職員が担当して、持ち込む物品やレイアウトと一緒に考えている。本人本位に居心地よく過ごせるように、孫の写真、好きな衣類、なじみの置物などがさりげなく置かれており、これまでの生活を継続できる支援をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者様の状況の変化に対応し、必要な福祉用具など、早めに職員が上へ報告することができている(末廣) | | |